

国内 IGF 活動活発化チーム第 61 回会合 発言録案

2025 年 4 月 21 日

加藤： それでは改めまして皆さんこんにちは。予定の時刻となりましたので第 61 回の国内の IGF 活発化チーム会合を開催させていただきます。今日は夕方 5 時から、今から 1 時間をめどに情報交換会をいつものようにやらせていただいて、その後 6 時から勉強会ということで、1 時間予定させていただきます。よろしくお願いいたします。まず今アジェンダを映していただきましたが、アジェンダに沿って、総務省の飯田様のお名前をお見受けするんですけども、飯田様から最近の動きご報告いただけますでしょうか？

飯田： はい。聞こえていますか？

加藤： はい、聞こえております。ありがとうございます。よろしくお願いします

飯田： 最近の動きはあまり動きがないんですけども、MAG の方は河内さんあれかな、ノルウェーの今年の年次総会に向けて議論はしていて、今年は結構、そこは加藤さんの方がむしろフォローしていただいているかもしれないですが。

加藤： そうですね、後で全体を簡単にご報告させていただきます。もちろんぜひよろしくお願いいたします。

飯田： そういう意味では、いろいろノルウェーの方からは情報提供があったので後でまとめてご報告いただいた方がいいかと思います。IGF とそれから今年後半の WSIS+20 へ向けての議論としては、引き続き、元々は G7 で始めた POC（ポイントオブコンタクト）のグループで、GDC グローバルデジタルコンパクトのフォローも含めて定期的に議論をしてるんですけども、先進国間では基本的には理解と、それから今後の対応方針のスタンスというのは大体共通してるんですが、7 カ国だけでやってもってということで、だんだんこれを広げていこうということで、ちょっと前に拡大会合を開いています。ここには韓国とかオーストラリアとか、どこがいたかな、ニュージーランドとか、オランダとかですね。もちろんノルウェーもですけども招待をして、WSIS+20 に向けてどういうことを戦略として整備していくかと、あるいは GDC のフォローアップの中でも、特に AI のところが比重が大きいんですけども、IGF のフォローアップとしても、例えば恒久化、今時限を切って開催されていて今年が見直しになるわけですけど、この後は国連のイニシアチブとして恒久化していこうということで、そういう提案も出ていて、結構今の議論の中では賛同を得そうな雰囲気になってますので、結構これ

は先進国の間でもあんまり欲張ると犠牲が出るんじゃないかというのは、先進国がいろいろ要求をすれば途上国側からのリアクションがあるということで、あんまり欲張らない方がいいんじゃないかっていう国と、とにかくまずできるところまで議論してみようという国と、若干まだ乖離があるんですけども、我々としては、恒久化できれば一番いいので、IGF についてはできるだけ前向きにポジションを出して行って、反撃があれば、その中で考えていくというふうに対処していきたいと思っています。

これは今後、イギリスとか他の同志国と議論しながらやっていくことにはなるとは思いますが、特に IGF についてはヴィント・サーフがリードしているリーダーシップパネルの方でも、かなりそのあたりを含めて議論をしてきてくれていまして、途上国を含めてどういうふうに議論を収斂させるかに対するナラティブですね、Internet We Want というペーパーをまとめてましたけど、ああいうものにさらにいろいろ肉付けをしてリーダーシップパネルとしての提案をするということで、時々MAG ともジョイント（会議）やっていると思いますけども、そういう形で前向きなスタンスを出して行って WSIS+20 の議論に反映させていこうということで定期的に会合を開いているところです。あと GDC のフォローアップの方も今は正式にあれが出てきてないので、この前 CSTD の方の会合で、WSIS+20 に向けての議論があったぐらいであんまり動きがないところなんですけど、いろんな会合を開くと、(UN) Tech Envoy が随所にいて、かなりその手広く情報収集してると思いますので、今後 Tech Envoy の ODET がどういうふうに提案を出したり動いてくるかですね。そういうところも見ながら議論に対応していきたいと思っています。

総務省的には AI の分野では広島プロセスのフレンズグループとかも開いていて、途上国にもかなりリーチをしているので、これがすぐに使えるものかどうか分かりませんが、やっぱり途上国の中にもですね、先進的な方針に理解を示してくれる国も結構いますので、そういう国をどんどん巻き込んで行って、1 回目は今年の国連総会の GDC のフォローアップの結論、それからその後のスケジュールへの対応というところで前向きに結論に導いていきたいと思っています。WSIS の方もレポートが秋と言ってたのが、もうちょっと早く出てくるんじゃないかというような話もありますので、ゼロドラフトですかね、そういうところも含めて大概の在外公館とかも含めて外務省とは一枚岩で対応しようということでよく連携をしようとしてますので、今後当然マルチステークホルダーでですね。この前の GDC のプロセスは名前ばかりだったんじゃないかという話も結構ありますので、ぜひステークホルダーの意見をどんどん入れていける機会を我々も確保できるように主張していきたいと思っていますので、コミュニティの方でもぜひそのあたりをよろしくお願いします。

あんまり進展がないもので、雑駁ですけども以上となります。

加藤： どうも飯田様、ありがとうございました。いろんな IGF だけではなくていろいろな動きがある
っていうのが多かったと思いますが、皆さん飯田様へのご質問とかございますか。いかがでしょう
か？ あればぜひ挙手いただければと思いますが、特にございませんか？総務省として宮本様の方から
も何かございますか？

宮本： 私から特に追加はございません。

加藤： はい、ありがとうございます。皆さんよろしいでしょうか？なかなか我々では見えない国連の
加盟国の代表としていろんなことをやってらっしゃる、せっかくの機会ですから、もし後になっても
まだ飯田様おいでになればぜひご質問いただければと思います。それでは飯田様ありがとうございます
ました。引き続き、今度は MAG の状況ということでもちょっと山崎さん、共有させていただけますでし
ょうか。こちらですね、今私が出したのが出ておりますでしょうか。MAG 会議の概要と書いたも
のでございますが、先週、4 月 14 日から 16 日 3 日間ジュネーブで MAG の会議がありまして、出席
してまいりました。大体 40 人ほど MAG メンバーがいるんですけれども、大半プラス政府関係の方も
イギリスとかドイツとかもちろんノルウェーの方も、あと地元のスイスですね、スイスの方は珍しく
レセプションを開催していただいたりとか、そういうこともありました。それで先ほどお名前が出て
た ODET とか、UN DESA（国際連合経済社会局）のデニースさんとか、関係者も何人か参加されてい
たということでございます。3 日間のうち初日はオープンコンサルテーションということで、登録す
れば誰でも聞ける、リモートでも聞けるそういう会議でございまして、そんなにたくさんってわけじ
ゃないですが、やっぱり初日の方がたくさん出ていらっしやいまして、2 日目 3 日目は MAG のメン
バーの会議なんですけど、これも登録すれば MAG パブリックというメーリングリストがあるんです
が、それに登録すれば、MAG でなくても話は聞けるし、ある程度発言も（順序は MAG メンバーが一
応優先ってことですが）やっておりまして、そういう意味で、この件をフォローされてる方が何人か
出ていらっしやいました。ということで、次に行きますと、どういうことがあったかですけど、オー
プンコンサルテーションでは特にこの WSIS+20 のレビューの手続きをいろいろやっている UN の
DESA ですね、その方から現状の報告と、7 月にジュネーブで大きな会議があると。これ人によると
IGF と同様にいろんな人の意見を聞くセッションを設ける、そういう会議だということで、確かジュ
ネーブで 5 日間ぐらい空港のすぐ横の大きな国際展示場がありますけど、そこで会議をやるというこ
とで、UN DESA さんの WSIS+20 のウェブサイトを見ていただくといろいろ情報があります。7 月の
頭のところの週でございます。それから今お話が出た国連の ODET、こちらの方から GDC のインプリ
メンテーションの動きもあり、これもいろんなヒアリングをやりながら、組織もかなり増えてきて、
人ができてきて、AI の関連の技術パネルとかいろんなものを今組織しているというお話がありまし
た。これも ODET の Web サイトを見るといろんな線表とか出てると思いますのでご覧いただければ

と思います。次に MAG として一番主要な活動として、6 月のオスロ会議のいろんなセッションを企画するということがありまして、これを結構時間をかけて行いました。最終的にセッション提案についてワークショップが約 400 を超えたと思いますが、約 400 の申し込みがあり、ライトニングトーク、オープンフォーラム、Day 0 のイベントからネットワーキングセッション、ランチアンドアワーズということで、ここに書きました通りかなりの応募があったんですが、一番中心的なセッションであるワークショップ、これは今回会場が大きな全体会議をやる会場、これかなりの人数が入って、かつ全てネット中継をし、かつ通訳が入るとい、そういう普通の会場なんです、それ以外にワークショップのブレイクができる小部屋が大体 100 人から 150 人ぐらい入ると言われてましたけれども、六つしかないんですね。その関係でワークショップやそれ以外のいろんなセッションをやる数が非常に限られていて、我々 MAG で四つのサブテーマごとに分かれていろいろ内容の評価とか選別をやったんですけれども、最初全部で 39 に絞ってくれと 400 を 39 に絞ってくれと、要するに 10 分の 1 にしろということで、かなりいろんなところからそれは少な過ぎると。例年 80 とかそれぐらいの数なんですけど、今回あまりにも少ないのはちょっと問題なんじゃないかという意見が多かったんですが、やはりどうしても会場の都合でノルウェー政府の方も、大きくは伸ばせないということで、一つは 60 分セッションと 90 分セッションというのが両方あったのはご存知と思いますが、90 分セッションはせめて 75 分にするということで、もう少し数を増やしたいという要望がありまして、あと数件、多くても 10 件ぐらいしか増えないと。従って 40 が 50 になればいいところだというのが現在の理解です。従って 41 を選んで、さらに次の候補として 22 を今選んでいます。ということで、私が担当したところ、特に AI とか新しいイノベーションに関連したセッションを私が担当したんですけれども、やはり AI が非常に多かったんですが、同じようなテーマが多いと、結局選に漏れてしまうっていう、残念ながらそういうような状況もあるんじゃないかというふうに思います。最終的には明日の夜 MAG のリモート会議がありまして、そこで最終決定しようということになっております。

それともう一つずいぶん時間をかけて議論したのが、メインセッションです。さっき申し上げたように、大きな部屋でみんなが集まって同時通訳もついてというのはこのメインセッションとハイレベルセッション、それから後で、山崎さんにもお話しただけだと思いますけども、NRI のセッションの中のメインセッションのようなところ、その辺になる。あとオープニングとクロージングのような形になると思いますが、メインセッションについてはさんざん議論した結果、三つの候補が挙がっています。これも会場の都合でどうしても三つにしろということでございまして、議論の過程で実はガバナンスのニューテクノロジーっていうのと、二つ目に AI、AI のガバナンスという、これも広いテーマですけど、これは AI の方に限ってニューテクノロジーっていうのは量子技術だとか、いろいろこれから出てくる技術を頭に入れて、やはり IGF もまだまだ将来に向かっていろんな活動するんだって

いうことを、そういうメッセージが重要だということでのいろんな議論、これが今有力な候補になっているんですが、それとやはり今回のノルウェーというのはタイミングからいって WSIS+20、GDC の新しい動きということもあって WSIS とか GDC について IGF がどんなことができるかとか、IGF の将来の役割・活動に期待するもの、そういうようなことを議論するセッションはやっぱり外せないだろうっていう意見がありまして、今回特にこのことをメインセッションとして取り上げるっていうのがかなりのコンセンサスだったと思います。

実はこの三つにする前に、どうしても四つにしてくれっていう議論が散々あったんですけど、結局やっぱり今の時点では三つだという、会場の都合で三つだっていうことなんですけど、四つ目として挙がっていたのが人権です。この人権っていうのはいろんな視点のヒューマンライトがあるわけですが、現在のところの案では人権を、最初のこの New テクノロジーの関係で新しい技術が出てきて、どうやってその中でも人権を守っていくのかというような形で並行して取り上げようかというようなところに落ち着いています。人権については、当然どの項目にも関係するので、そういうところからでも触れられるかもしれないですけども、今のところ見出しとしてこういうような形になっております。これも明日以降、最終的に決まれば発表されると思います。あとそれに加えて、ハイレベルセッションというのは、いろんな国々のハイレベルの方々が出るセッション。これは主に主催国ノルウェーが中心になって検討し、議論しているんですが、今のところ、ここにあります五つですね。この五つが決まっております。もう時間も大体決まっています。実はちょっとまだ非公開なんですけれども、大体 Day 0 含めた 5 日間のスケジュールについては、いつもご覧になるダイアグラム、何時、どの会場で何時から何があるっていうもののドラフトはできておりまして、それを見ても、確かにここにさらに詰め詰めでセッションをもう一つ入れるとかっての難しいよねっていうような、そんな議論をさんざんやりました。

それが今回の後ろの会議でさっき申し上げたように、おいでになる方も多いと思いますのでイメージを申し上げますと、今回の会場はオスロの郊外にあります空港と、オスロの市内のちょうど中間ぐらいなんです。地元の町はコンベンションセンター以外は本当に小さな町で、ホテルもそんなに数多くないところで、そこにもしお泊まりになるのであれば、サイトを見ていただければいろいろホテルのあれがありますけど、せいぜい 10 ヶ所あるかどうかぐらいの小さな町というか村のような地域なんですけれども、その地域にお泊りの場合はみんな歩いて会場まで行くのがいいだろうということで、特にシャトルバスを出すとか、そんなことはないということでございました。それから会場のすぐ横に一つホテルがあるんですけども、そのホテルでは政府関係の方々などがバイのミーティングをやる場所はそこでセットアップしているということがあって、その辺のロジとかの説明がございました。多くの方はオスロの市内にお泊まりになるとは思いますけど、その市内から電車でですね、中央駅

から電車で 10 分あれば会場のある駅まで着くと、そこからもう数分で会場に着くということですね、多くの方はその市内にお泊まりになるといいんじゃないかというようなお話でございました。あと今回はかなりもったいぶりながらですね、Music Night もあるし、いろんなイベントをやるというご説明もありました。前回サウジアラビアでそういうようなイベントがほとんどなかったことについて、復活していろいろそういうイベントもやると。オスロの市役所、有名な市役所でのレセプションのようなお話もありました。そういうのは正式に発表になると思います。

それからもう一つ、先ほどの飯田様からのお話もありましたけれども、今のようなオスロの 6 月のロジに加えて、途中で MAG とリーダーシップパネルとの会議っていうのもやりました。これまでも何回もやっております、まだこれから少なくとも月に 1 回やろうということなんですが、MAG からいろいろなコメントをしてリーダーシップパネルの話を聞くと、今回もリモートでしたけれども、ヴィント・サーフ以下リーダーシップパネルの何人か多くの方々が参加されて、いろんな活発な議論をしました。今具体的に、リーダーシップパネルは結構いろいろな活動をされておまして、WSIS+20 について IGF がいかに重要であるかってことをもう一度説明をする文章をきちっと用意していると、それから先ほどの Internet We Want の文書、それから IGF が WSIS+20 等に関して考えるプライオリティの文書、これもほぼ出来上がっていて、いろんなコメントを MAG と意思共有するということがありました。それからこれももうこういう場で言っていると思いますが、もう一度、国連の加盟国に対してリーダーシップパネルから IGF が重要であって、今後も継続してこの活動をしていくことを、リーダーシップパネルとしても推薦するという書簡を出すということで、そういう準備をしているお話がありました。これもドラフトを我々が検討するチャンスがあるということでございます。それからそういう形でリーダーシップパネル、特にヴィント・サーフ中心に、いろいろと IGF をさらに盛り立ててそれを恒久化して、そしてその恒久化のためには、最後に書きかけましたファンディングですね。IGF の事務局をさらに強化するためにファンディングを呼びかけるという、こういう議論がありまして、このファンディングについては以前も私もご報告させていただきましたけれども、MAG としてもいろいろなところに呼びかけるということを議論しておりまして、引き続きヴィント・サーフ以下リーダーシップパネルはこの MAG について、ごめんなさいファンディングについて、いろいろなところに呼びかけると。ただ民間のビッグテック、例えばです。ビッグテックがボンとお金を出すっていうことだと、やはり IGF としてバランスのとれた活動をしてるのかっていうそういう批判もあるので、そういうビッグテックを含めたプライベートセクターからのファンディングに加えて、いろんな国の政府からもお金を出していただくっていう話もありました。ちなみにドイツで日本の JICA にあたる国際組織、政府の組織があるんですが、その代表の方が、そことしても当然ファンディングもするけれども、それに加えて、このファンディングのためのファンドレイジングの

活動を活発化するための専門家を雇うなんていう提案がありまして、これ数字申し上げていいのか、数万ドルと言ってくれているんですけど、結局それなりにお金を出して、そういう専門家を雇ってきちっとマーケティングをし、IGF をいろんなところで活発化するためにドイツ政府としても支援すると、そういう発言もございました。先ほどのスイス含めていろんな国からもこの IGF 活動を引き続き支援するということで、おそらく日本にもそういうような動きがあるのかなっていうふうに思いますが、まだ今の時点でコミットについてお話しいただけないかもしれませんが、いろんな先進国の間で IGF を引き続き支援するということがありました。

それから最初のところに戻りますが、GDC との関係でやはり一番大きな問題が、GDC とどうやって協調していくかということで、これこの活発チームの方々に以前も申し上げたことですが、GDC 自身が新しい国連の組織も、特に IGF から生まれた NRI です。176 の NRI が国地域の NRI が今存在するっていう前提で、それをどうやって活動を活用しながら、地域のいろんな意見を吸い上げ、いろいろな世界全体としての意見をまとめ、かつそれを地域にどうやって普及させながらインプリメントしていくかってそういう議論をしたいということでですね、IGF の方から生まれたいろんな活動、ダイナミックコアリションもそうですけれども、そういうものの重要性っていうのを訴えていく、かつそれをうまく使えるような働きかけを GDC に対してやっていこうというそういう議論が何度もありました。私からは MAG については以上です。もしご質問等あればお伺いしますが、いかがでしょうか？はい、山崎さんお願いいたします。

山崎： ちょっと細かいことになってしまうかもしれませんが、1 日目は確か YouTube に録画上がってたんでちょっと見てたんですけど、去年のサウジアラビアと同様、ワークショップはまたヘッドセットをつけないと聞けないというふうになってるようなことを言ってたように聞こえたんですけども、ワークショップ全部がそうなりそうでしょうか？

加藤： 全部だというのが私の理解で、六つの部屋が真ん中に、ブースがあって、やはり前のように皆さんヘッドセット、というかヘッドセットについて本当に大丈夫かという意見が結構ありました。主催者側はちゃんと声がでるし聞こえるしっていうお話がありましたが、そのところはお指摘の通りだと思います

山崎： ありがとうございます。

加藤： 他いかがでしょうか？もし今の私のお話を含めて、飯田様から何かこの点はこうだっていう追加とかございましたら、お願いできればと思いますが、特にございませんか？

飯田：大変詳細なので追加するほどのことはないんですが、さっき山崎さんからかな、チャットでいただいた CSTD なんですけども、細かいことはあれなんですけど、実は IGF の恒久化っていう議論もそこでも出てまして、相当賛同を集めてあと一息で合意できそうなところまでいったという話がありました。一部ですね、一部と言っても本当に 1 カ国反対したっていう話だったんですが、最後本当に採決みたいになったらどうなのかわかんないんですけども、一応その CSTD としては、恒久化というのを、何て言うんでしょう。提言できるところまで行ったというところだったので、今後それ自体がどういうその効力を持つかということもさることながら、結構そこに参加していた多くの国の政府が恒久化という提案に、特段その強い反対を示さなかったというのは、今後の議論に向けてかなりエンカレッジな報告だったとも受け止めていまして、今後で、その線は追求していく価値があるのかなというふうに改めて思ったということがあります。あと私どもも実は今回のオスロにも提案をしているので、セッションの数がどうなるかというのは結構心配してまして、できれば提案したものが残って、もし可能であれば皆様もご参加いただければと思っているところです。特にそれ以上はありません。詳細なご報告ありがとうございました。

加藤： どうもありがとうございました。改めて飯田様と私の MAG の報告についてご質問等いかがでしょうか？ぜひ早めにご視聴される方、参加される方はご登録いただければと思います。ただ残念ながら日本から応募された方含めて、今回スロットが非常に限られているので、自分が応募したにも関わらず発言できないっていうこともあるかもしれないので、そこはかなり覚悟していただいてってということで。私が見た限りでも、結構どれもいいなと思って応募があって、なかなかその中でトップ 10%ほどに絞るのは難しいなっていうのが、特にワークショップはそういう印象が強かったです。今回本当に数が少ないのは残念なんですけれども、残念ながらそういうのが今の状況でございます。他にございませんでしょうか？

前村： 前村ですけれどもよろしいですか。

加藤： 前村さんお願いします。

前村： 質問とかっていうことではないんですけども、詳細なご報告ありがとうございます。リソースはなんかうまくいかないもんだなとも思うんですけども、一方で、非常に前向きに準備が進んでいるなという印象を受けました。どうもありがとうございます。

加藤： ありがとうございます。そういう意味でノルウェー政府も非常に力が入ってるっていうのは感じました。こういうセッションをアレンジしているアジア系の女性を中心になって、説明もし、アレンジしてくれてるんですけど、これだけ短い間にここまでまとめ上げるのは結構大変だったと思います。

す。普段の準備期間の半分でやっているわけですので、そういう意味ではよく頑張っているな、まとまってきたなという印象は受けました。

いかがでしょうか、他の方々？一旦ここでこの件は終わらせていただいて、画面を山崎さんにお返しします。次は NRI の件について山崎さん、お願いしてよろしいでしょうか？

山崎： はい、もちろんです。ちょっとお待ちください。

それでは先月 3 月 25 日に開催された、第 3 回の NRI コーディネーターの会議について報告したいと思います。主な議題は IGF2025 で行う NRI のセッションの内容を詰めていくという、そういうものです。

まずメインセッション、これ一番メインのもので国連公用語 6 ケ国語への通訳がつくというものです。テーマは確定してインターネットガバナンスにおけるマルチステークホルダーアプローチの強化というふうになっています。去年とテーマは類似しているんですけども、今回はより政策的な観点での具体的な改善点の提示を目指すということで、ここに書いてある四つの、さっき飯田さんがおっしゃっていた WSIS+20 とグローバルデジタルコンパクトに加えて SDGs、2030 アジェンダという別の名前もありますけど、それと去年ブラジル・サンパウロで開催された NETmundial+10 でもかなり出ましたけども、サンパウロマルチステークホルダー原則、この辺と連携しつつ議論を展開するというふうになっています。主な論点と提案ということで、これ全部読んできると時間ないんですけども、国連の文脈におけるマルチステークホルダーの議論について振り返り強化策を模索ということになります。

次に NRI コラボレイティブセッション、3 セッションあるんですけども、この三つに決まり、まずはコネクティビティ、接続とコミュニティベースのネットワークによる手頃な価格での普遍的アクセス実現、データガバナンス、サイバーセキュリティ脅威の管理と、この三つになったということです。作業体制として、毎月行っている NRI の会合と NRI のメーリングリストを通じて進めるということになっていますが、NRI のコラボレイティブセッションでは、それぞれメーリングリストを立ち上げて、そこで議論するというふうになっていて、もうメーリングリストはできています。ここに書いてあるような感じでもう今月中には大体固まるという感じを目指すということになります。

もう一点は、これは直接関係ないんですけども、WSIS+20 に向けて NRI として政策提言をしようではないかっていうことで、このコーディネーターの会議に参加していて一番よく発言している北アフリカ IGF の方が素案作成して今後議論するというふうになっています。もう既に Google Docs で原案

は共有されていて、コメント等もいくつかされてるという状況です。その他の確認事項としては、各 NRI、例えば日本では我々ということになりますけども、自国でのセッションや議論内容を報告して、全体の議論に厚みを加えることを推奨するということと、議員ですとか政府関係者の積極的な関与を促進、それから多様な立場からの意見を尊重しつつ、文章の整合性など簡潔さを保つ工夫が必要というふうになっています。次回会合は 4 月下旬ということで、28 日月曜日に決まりました。基本的には続きですけども、これまで進めてきたこの四つのセッションの議論のまとめとドラフト作成を事務局がやると。メーリングリストは既に作られて今日招待されていると。WSIS+20 の提言文書についても GoogleDocs が共有されているという状況となります。以上ですが、加藤さんもし何か補足あれば。

加藤：ありがとうございます。私から補足するとしたら、先ほど全体 IGF 全体のメインセッションが今三つ企画されてると申し上げましたが、この NRI が主催する NRI としてのメインセッションがやはり WSIS+20 とか GDC とかその辺の話を中心にやるということになっておりまして、IGF の方のメインセッションとその部分が似たような話になるのでそこをうまく調整しようと、NRI としての特色を出した議論と前対面セッションのところはうまく調整しながらやるというのを、NRI 担当のアニヤなんかからもお話があって、そういう方向で全体のメインセッションも進めるということになっております。私はそれぐらいです。ありがとうございました。皆さんご質問はいかがでしょうか？特にございませんか？もしそれではよろしければ、次のアジェンダ項目に移りたいと思います。

NRI の後はですね、これ以外の何か会議と先ほどの飯田様の方から GDC の動きとか、いろいろな政府間の議論とかご報告いただいたわけですけども、それ以外に何かご報告いただくようなことはございますでしょうか？

特に今ございませんか。もしあればまた後で付け加えていただくとして、勉強会に関して、山崎さん、勉強会と、今 5 月後半に考えている。IGF のミニミニ準備会合のようなもの、この話をここでさせていただきますかね。

山崎：二つありまして、5 月の勉強会と、国内 IGF2025 の国内事前会合と二つしなきゃいけないと考えていまして、今日この後勉強会ありますけれども、その次を決めとかなないとということで、特に話したいというのが、どなたかから提案されてるわけではないので。

加藤：一つアイディアとして、山崎さん、前回の会議で、5 月後半か 6 月頭に、いつもだったらノルウェーの IGF がある前に、日本 IGF として準備会合的な会合をやろうというのがあったんです。今年は時間的にも非常に厳しいので、通常の応募プロセス、選考プロセス、それに基づく準備ってのはと

てもできないので、もしご提案があればそれをスモールパッケージでやってみてはどうかということがありましてそこで出てきたものと、タイミング的には次回の勉強会が時期的にかなり近いので、場合によってはそういう形でやるか、勉強会の次回という形でやるか、両方やるか勉強会の方はもしミニ IGF 準備会合をやるのであれば、今回は次に伸ばすってということなのか、いろいろ考えがあると思うんですが、その辺いかがでしょうかね。

山崎： もし通常通り今月と同じような形でやるとするのであれば、JPNIC の方で技術ネタを用意しております。

加藤： そうですか。

山崎： はい、さっきエマージングテクノロジーって話が出てきましたけども、そしてポストクアンタムクリプトグラフィティ、耐量子暗号ですね、ですとか、暗号技術についてお話しできるという。

加藤： なるほど。

山崎： 準備はしております。

加藤： わかりました。

山崎： 国内 IGF 事前会合ですけども、それは別にやるとすれば、前回第 60 回の会合で立石さんから二つご提案いただきまして、オンラインカジノブロッキングの動きについて、生成 AI による CSAM の作成の規制についてというのをご提案いただきました。その後これについて立石さんとメールでやり取りした際に、今月衆議院で可決されたんでしたっけ、能動的サイバー防御についてっていうのもどうかというご提案がございました。

その三つが主に国内の話になりますけど、それとは別に IGF の今後および WSIS+20 に関してやってもいいんじゃないかという、ここに書いたのは案ですのでこの通りやらなきゃいけないっていうわけではないんですけども、こういうことも皆さんが合意すれば、やることは可能という感じにはなります。

加藤： ありがとうございます。もしこれもやって、先ほどのポストクアンタムクリプトグラフィをやっていたくすると、タイミング的にはその次の勉強会はこの前の週ぐらいでしょうか。

山崎： そうですね、次回打ち合わせ予定のところにその 1 週間前の 5 月 19 日に開催候補としたいと書いてあって、この日にチーム会合と勉強会をやってその翌週に事前会合をやりと 2 週連続でちょっ

と大変だと思いますけども、やることは可能と。日程的には可能ということですね。ただ皆さんがどうお考えになるか次第ですけども。

加藤： 皆さんいかがですか？山崎さんからクリアにご提案いただいた、一つは5月19日頃にIGFの活発化会議をやり、今日と同じように勉強会をそのときにやってこれJPNICさんからご提案の項目プラス、26日にIGFの今後とWSIS+20のようなことでもう一つ、立石さんの三つの提案プラスそういうことで国内IGFの事前会合を若干スモールバージョンでやると。これについて皆さんご意見いかがですか？どういう形がいいのか。さらに追加のご提案、今回あまりご提案の数が多くなかったんですが、何かご意見ございますでしょうか？もし立石さんの方からも状況についてお話しいただけるとありがたいかもしれないですが、いかがでしょうか？

立石： 特に進んでいるわけじゃないんですけど、オンラインカジノについてはポツポツ動きがあるし、明後日から総務省で検討会も始まりますので、いいのか悪いのか、ちょっと動きが出てきます。それから生成AIのCSAMについては、まだ内輪の議論ではあるんですけど、ご存知のように海外ではAIによる児童ポルノだけじゃなくて、ポルノも相当規制していて、日本だけやっていないじゃないかみたいな話が言われたりしていて、何て言うんでしょう、その辺に関しては、ちょっと統計データがちょっとバラバラだったりするのでどうかと思うこともあるんですけど、一方的に言われっぱなしっていうじゃなくて、日本もちゃんとやってるよっていうのをちょっとやらないといけないのかなという意味で話を載せたいと。両方そうなんですけど、変な議員立法とかが、怒られるかもしれないけど、出てくると、後々面倒くさいっていうのは過去何回も経験してるので、特にオンラインカジノに関してについても、通信の秘密が全然わかってない方が言っていたり、場合によってはギャンブル依存症の話まで出てきて、そこでブロッキングしろなんていう話になると、論点が広まりすぎてわかんなくなっちゃうと。特に二つ目の生成AIのCSAMってのは児童ポルノのことを、今児童ポルノとは言わなくなっていてシーサムなんですけど、NHKで特集やってたことに関して、専門家の方からNHKがやった放送の報道の仕方が法的にもおかしいというのまで出てたりして、それもあって、オンラインカジノブロッキングの方はあらかじめ勉強会を始めるということにもなってるんですけど、そういうのを含めると、二つに関しては、通信の秘密とかSNS規制の話もあるので、結構特に日本においては今のところ重要なのかなと思います。能動的サイバー防御に関してはこれちょっと大胆でどうなのっていう意見もあるので、ただあんまり国民的議論になってるかっていうと、インターネットだかわかんないっていう形で、いつものごとく、あんまり国民的に議論にならずに動いてるところもあるという感じの面もあるので、これに関しても、もうちょっと一般の方々普遍するような形の、そんなにいきなりなんていうんですか、深掘りしたものはできないんですけど、少なくともこういう議論

があるんだと、論点ってのはこういうのがあるんだということぐらいは出しておいてもいいのかなというふうに思ってます。そんな感じです以上ですいません。

加藤： どうもありがとうございます。時間が押しておりまして、あまり議論ができないかもしれないですけども、最後の IGF の今後および WSIS+20 ってのも今年の IGF の事前会合で非常に重要な課題だと思って、私 ICC 国際商業会議所のプライベートセクターで非常に中心的になっているフランスのパリの方、それから市民団体でインドのリーダーってご存知だと思いますが、インドの方で、アジア代表でいろんなところで発言されている方などに声をかけて、そういうのがあるなら日本での会合に参加しても良いという内諾は得ております。そういう意味で、もしこういう会合をやるとしたら最後のところはそういう人たちの意見を交えながら、例えば日本から技術コミュニティで山崎さんとか前村さんからそういう方をも入っていただいて話を、意見交換をして、こんなお風呂に向かうとそんなのはどうかなというのが四つ目の企画、私をご提案している企画でございます。皆さんいかがでしょうか。ご意見ございましたら。今のような立石さんの方で三つセッションをやっていただくとすると、4 時間ですけれどもやりますかね。いかがでしょうか？

立石： 僕 1 人では多分できないんで、他の方にあれすると思うんですけど、どこまで議論するかだと思うんですけど、60 分までやるなら、生成 AI のシステムに関しては結構関係者が多いんで、60 分いるかなと思うんですけどどうでしょう。60 分以内で 3 人それぞれ 60 分以内で収まるのは収まると思います。

加藤： ブロッキングの話は昨日の NHK の放送ではかなり依存症とか、それからプロファイリングの技術の話とかその辺が浮き彫りになってますが、そちらではなくて、ブロッキングのお話を中心なんです、これは。

立石： ちょっとそこはね、分らないです。今週勉強会始めるんですけど、どういう方針でいくかっていうことが、実はまだあまりちゃんと決まっておらず、技術面とそういう意味では、海賊版サイトのときのようなことにはならないようにということも考えているので、おっしゃるようにブロッキングに関することがメインにはなると思いますけれども、いろんな論点があるんで、そこは大きなところだけはカバーしなきゃいけないかなと思います。

加藤： 皆さん他いかがですか？例えば、前村さん最後のセッションに参加いただけますか。当日は...

前村： ぜひとも参加させてください。よろしくお願いします。

加藤：ありがとうございます。

前村：オンラインカジノブロッキングに関しては、検討会という形で水曜日の第1回会合から始まって12月ぐらいまでやるというふうなことで、私、構成員に入れていただいていたしまして、ブリーフィングを受けたところなんで、ブリーフィングを受けたところによると、アクセス抑止のあり方という言い方になっているんですけども、依存症という文脈もあるし、通信の秘密という文脈もあるし、その中で適法なのかといった議論があるという何でしょうね、バランスが取れたというのか、漫画海賊版のときのような反対派と賛成派で押し合いするみたいな感じではないように見えていて、なかったらいいのか悪いのかっていうのもわからないんですけども、ちょっとこれから様子をうかがうって感じになるんだろうと思います。知るところを述べました。ありがとうございます

加藤：お時間がもう限られておりますので、今のご提案に沿って皆さんのご意見をいただきながら準備をするという方向でよろしいでしょうかね。最後のセッションにはぜひいろんな方も参加していただいて、英語で参加する方があれですけれども、うまく日本語にしながら中身の議論ができるといいなと思いますので、ぜひご協力をお願いしたいというふうに思います。いかがでしょうか。そういうことでよろしいですか。何か尻切れトンボで十分議論できないままになってしまいそうですけれども、その準備のこともありますので5月19日には活発化チーム会議をやり、かつJPNICさんご提案の勉強会をやると、うまくまとまれば26日はここにいらっしゃる方々、ぜひ有志の方にご協力いただきたいと思いますが、そういう方々で詳細を詰めて26日の午後2時から6時まで、パリの方それからインドの方も時間的にはその時間なら大丈夫だと言われているので、そういう形で事前会合を行うということで進めさせていただきたいと思います。ということで、最後本チームの今後、それからそれ以外のアジェンダ、もし追加何か項目としてあれば、ご発言をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか？

山崎：山崎ですけれども、一瞬だけ発言させてください。前回の第60回チーム会合でこのチーム名を変えるということになりまして、その後特にコメント・ラストコール期間中にご意見ありませんでしたので、チーム名は変わるということで決まりましたということをお知らせします。

ちょっと間に合ってませんけれども、追ってそのチーム名変更のお知らせみたいなものを出そうと思います。

加藤：はい、ありがとうございました。次回62回目からは、もう少し短い名前でのチームの会合を行うということで、よろしくお願いします。それでは次回のこの会議は5月19日に順番の意見交換会をやった上で、JPNICさんご提案の勉強会をやるということで、行わせていただきますし、5月

26日の午後は今の準備会合をやるということで決めさせていただきたいというふうに思います。それでは、皆さんありがとうございました。ちょうど予定の時間になりましたので、引き続き勉強会の方をよろしくお願いしたいと思います。